2026 年北海道学連競技会 3 戦

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

本大会は、2026 年度日本陸上競技連盟規則、ならびに本大会申し合わせ事項により実施する。

2. 札幌市厚別公園競技場使用上の注意

1) 当該種目競技者以外は、競技エリアへの立ち入りを禁止する。
2) 競技開始後はフィールド内での練習を禁止する。
3) 練習場所については、屋内走路とする。屋内走路で走る際は一方向のみとする。本大会は補助競技場の使用は不可とする。
4) **開門時間は、審判 6:00、開催協力校 7:00、一般入場 7:10 とする。**
5) **朝の主競技場のトラックを使用しての練習は、8:45 までとする。**
6) **厚別公園競技場内でメインスタンド以外での場所取りは禁止する。**
7) **トイレは補助競技場近くの主競技場外側と屋内走路近くの 2 か所が使用可能となっている。**

3. 点呼・棄権について

1) 競技者は指定された時間までに 1 次点呼（〇付け）を行い、その後、各競技開始場所に直接集合すること。 1 次点呼（〇付け）・現地集合時刻は以下の通りとする。
共通男女 1500m については**現地集合を 1500m スタート地点で行うこととする。**

	1 次点呼	現地集合時間
トラック競技	競技開始 40 分前	競技開始 20 分前
フィールド競技	競技開始 40 分前	競技開始 30 分前

2) 1 次点呼（〇付け）場所は、**競技場中央エントランス**に設ける。
3) 10000m、10000mW に出場する選手は 、シューズの厚さ検定と自身のレーンナンバーの書かれたビブスの配布を もって 1 次点呼とする。その点呼は競技場中央エントランスにて行うため、注意すること。
4) 指定された時間までに 1 次点呼（〇付け）を行わない、または指定された時間に競技開始場所にいなかった競技者は当該競技種目を棄権したものとみなし処理する。
5) 代理人による点呼は原則として認めない。
ただし、競技者が他の種目に出場中の場合のみ代理人による点呼を認める。その場合はその旨を競技者係にあらかじめ伝えておくこと。
6) リレー種目は、オーダー用紙（本部受付に用意）に走順・ナンバー・名前を記入し、1 次点呼（〇付け）終了時刻の 1 時間前までに競技者係に提出すること。リレーメンバーの全員での点呼は行わず、オーダー提出後は競技開始の 20 分前までに各走者ごとに現地にて集合すること。
7) 棄権する場合は、1 次点呼の締め切り時刻までに競技者係まで申し出ること。

4. アスリートビブスについて

1) 学連に登録した競技者は、各自の学連ビブスを使用する。2026 年度のものを使用すること。学連ビブスは受付の際に配布するため、まだ受け取っていない大学は取りに来ること。

2) 中学生・高校生はそれぞれ中体連・高体連の割り当て番号によるビブスを使用すること。

3) 一般参加者は各登録陸協の割り当て番号によるビブスを使用すること。

4) エントリーの際に番号の入力がなかった参加者には主催者側で割り振っている。ビブス番号の変更については**大会前日 10/2(金)12:00** までにメールにて団体名・名前・誤ビブス No・正ビブス No を送ること。

5) **腰ナンバー標識は貸し出さない。各個人が用意したものを使用する。400m 以下の種目出場者については両側につけることとする。**その他の個人トラック種目出場者については右側にのみつける。**混合 4×400mR については第 2、3、4 走者は両側につける。スウェーデン R については第 3、4 走者は両側につける。**

5. シューズについて

1) 各競技者は日本陸上競技連盟競技規則 TR 5.2 に基づいたシューズを着用すること。

2) WA が作成した認証済みシューズリスト（https://certcheck.worldathletics.org/FullList）に基づき、使用の可否を判断する。ただし、リストに不掲載の靴については競技者係で計測の上競技規則を満たして いるかの判断を行う。

3) 10000m、10000mW に参加する競技者は全員必ずレースで使用するシューズを 1 次点呼場所に持参し、シューズの厚さ検定を受けること。1 次点呼を兼ねているため、検定を受けなかった 場合は棄権として処理されるので注意すること。

4) 特に中学生に関しては履いているシューズの厚さが規定を満たしていないことが多々あるため不安な場合・スパイク以外を使用する場合は必ずシューズの厚さ検定を行うこと。

6. 競技の抽選・番組編成について

トラック競技のレーン順、フィールド競技の試技順はアスリートランキング記載の順による。

7. 用器具について

1) 競技に使用する用器具は、すべて主催者側が用意したものを使わなければならない。
ただし、投擲物は 1 次点呼終了時刻 1 時間前までに本部で各々検査を受けて許可されたものに限り、個人所有のものを使用することができる。この投擲物は、他の競技者も使用できる。（日本陸上競技連盟規則 TR 32.2）

2) 滑り止め（炭酸マグネシウム）は、主催者側では用意しない。必要に応じて各個人が個別に持参すること。

8. トラック競技について

1）すべて写真判定とするが、万一、機器が故障し復旧しない場合は、手動計時に切り替えて継続する。

2）男女 100mに関しては、二次レースを男子 4 組、女子 2 組実施する。

3）男女 100mに関しては、バックストレートフィニッシュにするかは、一次点呼終了時刻の 30 分前に決定し、アナウンスにて報告する。

9. フィールド競技について

1) フィールド種目は、全員が 3 回の試技を行い、その後各区分の Top8 のみ 1 回試技を行う。

2) フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。

3) 跳躍競技でのバーの上げ方は下記のとおりとするが、状況により変更することもあり得る。

種目	練習	試技
男子　走高跳	1m40、1m60、1m80	1m40 より 10cm　1m60 より 5cm 1m90 より 3cm
女子　走高跳	1m20、1m40、1m55	1m20 より 10cm　1m40 より 5cm 1m60 より 3cm

4) 円滑な競技進行のため、試技を行う際には制限時間を遵守すること。

5) フィールド競技の競技場所に近接したスタンドにコーチングエリアを設ける。当該種目に出場している競技 者とのコミュニケーションはコーチングエリアから行うこと。

10. 助力について

1) 競技者への助力については、日本陸上競技連盟規則 TR6 に則り規制される。これに抵触する場合は、審判長から注意・警告を行う。

2) 是正されない場合は、種目から除外される場合もある。

11. 抗議について

1) 競技進行中に起きた競技者の行為、または競技成績に関する抗議は、その競技者あるいはチームの代表者により結果が正式発表（アナウンス）されてから 30 分以内（同一日に次のラウンドが行われる競技では、その結果が正式に発表されてから 15 分以内）に、総務員を通して口頭で審判長になされなければならない。時間以内に申し出がなければ、何ら問題はなかったものとみなされる。

2) 抗議に対して審判長は速やかに裁定する。その裁定を不服とし、さらに抗議する場合は抗議申立書と**預託金 20,000 円**を添えて上訴する。この預託金は抗議が受け入れられなかった場合は没収される。

3) この間の事務処理は総務員が行い、抗議者は大会本部で待機する。

12. 撮影について

1）競技者（選手）がカメラで撮影されることによって嫌悪や不安に感じると思われる場所からの撮影は禁止する。また、撮影をしている場所によっては不審と判断された場合、競技役員が注意・指導、撮影内容の確認をする場合がある。

2）参加者による撮影に関しては、

①所属団体（学校・クラブチーム）がわかる服装をしているもの（学生に限る）

②団体受付にてまとめて団体代表者に渡す「撮影許可証」を首から下げているもの

のどちらかの場合のみ許可する。学生の保護者や関係者などに関しては、関係団体より撮影許可証を借りること。

13. その他

1) 競技者の衣類の管理は、すべて各自で行うこと。役員・補助員による運搬は行わない。

2) 盗難・紛失について、主催者で受領した物品については一時保管するが、その他のものについては一切責任を負わない。なお、主催者で受領した物品等は大会本部で管理する。
競技中に発生した傷害、疾病についての応急処置は主催者側で行うがそれ以降の責任は負わない。ただし、2026年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。

3) **正面駐車場**は競技役員など駐車券をお持ちの方以外は基本的に駐車できない。その他の選手、観客で車でご来場の場合は、**第 1 駐車場**を利用していただく。駐車場が埋まった場合は近隣の駐車場に止めていただくが駐車料金は各自の負担とする。大型バス・棒高跳のポールの輸送に必要な車両については正面駐車場の奥、第2曲走路付近の駐車を許可する。

4) 大会期間中に出たゴミは、必ず各自で持ち帰ること。

5) 不審者・不審物等を発見したら、大会本部まで連絡すること。

6) その他、不明な点は大会本部まで問い合わせること。